

# ライフサイエンス



ライフサイエンスは生活に欠かせない  
(東ソー提供)

## 医療・健康分野 これまでの成果と今後の取り組み

これまでの改革の主な成果	今後の取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域医療連携推進法人 (地域医療法人などの一括的経営。効率的医療介護サービスの提供)</li> <li>患者申出療養 (国内未承認医薬品などを保険外併用療養として使用可能)</li> <li>先駆け審査指定制度 (画期的な医薬品について承認審査での優先的な取り扱い)</li> <li>先進医療(再生医療、医療機器)の評価の迅速化・効率化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療のICT化 (重複審査・投薬防止のため2020年までに大病院での電子カルテ普及率を90%に、18年度までに地域医療情報連携ネットワークを全国普及)</li> <li>個人番号カードを健康保険証として利用(17年7月以降) 電子お薬手帳の全国普及(18年目途)</li> <li>個人の医療健康情報などを委託によって管理する情報管理の「代理機関」制度の創設</li> <li>外国人患者の受け入れを行う医療機関を「日本国際病院(仮称)」として構成し、海外に発信</li> <li>外国人患者の受け入れをワンストップサポート</li> </ul> <p>(首相官邸「これまでの改革の主な成果と新たな取り組み」から作成)</p>

文部科学省のポータルサイト「ライフサイエンス広場」によると、ライフサイエンスは生物が富む生命現象

ライフサイエンスは私たちの生活の営みに欠かせない。少子高齢化社会を迎える食料の安定した供給と安全性の確保、健康や医療の高度化の課題がある。企業はライフサイエンス市場の成長を視野に、国内外でさまざまな展開を加速させている。

## ICT化を徹底推進

### 地域経済のけん引役に

次世代ヘルスケア産業の創出支援として、地域版次世代ヘルスケア産業協議会の設立を促進し、それらを連携して地域経済活性化支援機関(RHVIC)などと連携して「地域ヘルスケアビジネス事業化プラットフ

### 成功ビジネスモデル

次世代ヘルスケア産業の創出支援として、地域版次世代ヘルスケア産業協議会の設立を促進し、それらを連携して地域経済活性化支援機関(RHVIC)などと連携して「地域ヘルスケアビジネス事業化プラットフ

が付された個人情報の取り扱いルールを検討する15年までに一定の結論を得る)。

地域医療情報ネットワーク/電子カルテの普及促進は18年度までに実現し、投資前段階から的人材育成を含むビジネスモデルの作り込みなどを促進する。

医療の国際展開では外

人患者の受け入れなどをワ

ンストップでサポートし、

外国人患者の受け入れに関

し意欲と能力のある国内医

療機関を「日本国際病院

(仮称)」として海外に発

信することなどで、外国人

の集患などに取り組む。

医療などの分野における

番号制度の導入では、

リティーの徹底的な確保を

図り、マイナンバー制度の

インフアを生かして医療分

野などに番号制度を導入

(18年から段階的運用開

始)、20年までに本格化(

医療の質向上)に向けて

具体的制度設計、固有番号

政権の経済政策「アベノミクス」の第2ステージとなる「日本再興戦略・改訂2015」を閣議決定した。13年のアベノミクスは第1の矢が大胆な金融緩和政策、第2の機動的財政政策の矢を放ち、需要喚起の対策を講じた。第3の矢の成長戦略は実行中で、第2ステージでは設備や技術、人材などに対する未来投資による生産性革命の実現と、地域資源の活性化を背景に日本経済を取り戻す「ローカル・アベノミクス」を推進して日本を成長軌道に乗せ、世界をリードする国にするといううもの。

少子高齢化社会を迎えて、医療や介護、健康分野において健康と予防意識が高まっている。改訂201

5では、「嗜好や生活スタイルの多様化により、健康や予防サービスに対する意識が強まる中、ヘルスケア産業の成長は地域経済のけん引役として期待される。

地域医療などの分野では現場における医療情報と共に連携した健康・予防・関連設備や技術、人材などに対する情報通信技術(ICT)化を推進することとし

て、医療や介護、健康分野において健康と予防意識が高まっている。改訂201

5では、「嗜好や生活